学校番号	325

令和５年度　国語科

教科	国語	科目	古典Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校「精選古典Ｂ」　（三省堂）						
副教材等	これでわかる　明快　古典文法（いいずな書店） 新版二訂　みるみる実力アップ古文３(第一学習社)						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・様々な古典の文章を読むことを通して、人間、社会、自然などについての自分の考えを深めよう。
・古典の語句の意味や用法、文法を的確に理解し、独特の表現の特色を捉えられるようにしよう。
・予習では、本文をノートに写し、わからない語句を調べ、自力で口語訳ができるように取り組もう。
・学んだことを定着させるため、復習として教科書・ノートを利用して学習内容の整理に取り組もう。

２　学習の到達目標

・1，２年次の古文の基礎をもとに、広範囲の時代の古典の作品を読解する。
・古典の世界を深く味わい日本文化を理解するとともに、大学入試に対応した学力養成をはかる。
・作品読解を通して当時の文化や人の生き方を理解するよう努める。
・古文の文法・単語の力の伸張をはかる。
・大学入試等に備え、自力で古文の作品を読解できることを目指す。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	古典を読む力を進んで高めようとしている。また、古典についての理解や関心を深めようとしている。 思想や感情について自分の考えをまとめ、人の意見を聞いて理解を深めようとしている。	古典作品の文脈や段落相互の関係を踏まえ，文章の構成や展開を正しく読み取る力を身につけている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、修辞法などの知識を身に付けている。 文法を理解し、内容を正確に理解している。
評価方法	・行動の観察 ・記述の点検（ノート、ワークシート等）	・記述の確認（ノート・ワークシート等） ・小テスト ・定期考査	・行動の観察 ・記述の点検（ノート、ワークシート等） ・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	d	e		
1学期	古文の読解(発展)	『枕草子』 序段 ありがたきもの 中納言参り給ひて 『大和物語』 姨捨	 ○ ○ ○ ○	 ○ ◎ ◎ ◎	 ○ ○ ○	a:内容の展開を理解し、当時の生活・和歌に込められた心情を読み取ろうとしている。 d:筆者の美意識や機知、心情を読み取っている。 e:文法事項の語の識別ができている。	行動の観察 記述の確認 ノート点検 小テスト 定期考査
	古文の読解(応用)	『更級日記』 源氏の五十余巻 『方丈記』 ゆく河の流れ 『徒然草』 世に従はん人は	 ◎ ○ ○	 ○ ◎	 ○ ○	a:平安女流日記文学・中世随筆文学の特徴を理解しようとしている。 d:筆者の立場を理解し、その心情や人生観を理解しようとしている。 e:形の上で紛らわしい語を文法的に識別できている。	行動の観察 記述の点検観察・分析 ノート点検 小テスト 定期考査
2学期	中古の文学	『竹取物語』 「かぐや姫の昇天」 『古今和歌集』 「仮名序」	 ◎ ○	 ○ 	 ○ ◎	a:語句や表現に即して、内容の展開を読み取ろうとしている。 d:文章を通して、登場人物の行動と心情を読み取っている。 e:文学史的な知識を理解する。	行動の観察 記述の点検観察・分析 ノート点検 小テスト 定期考査
	中世の文学	『平家物語』 忠度の都落ち 『無名草子』 文	 ○ ○	 ○ 	 ○ ◎	a:音読を通して文体を味わい、内容を踏まえて、人間の生き方や考え方についての理解を深めようとしている。 d:　登場人物の置かれた状況やその心情を読み取っている。 d:作品の文学史的位置について理解している。	行動の観察 記述の点検観察・分析 ノート点検 小テスト 定期考査
3学期	近世の文学	『雨月物語』 浅茅が宿	 ○	 ◎	 ○	a:作品の読解を通して、人間の生き方について考えようとしている。 d:話の展開を整理し、登場人物の心情を読み取っている。 d:近世の文学史について理解している。	行動の観察 記述の点検観察・分析 ノート点検 小テスト 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　d:読む能力

e:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。